

早わかり 駿府城

? 駿府城 - 築城から埋め立てまで -

天守・天守台の存続期間

略年表



埋文ぼうや

天正 13(1585)年	7月 徳川家康 築城開始 築城 1回目
天正 14(1586)年	家康が浜松城から移る
天正 16(1588)年	5月 天守の普請 (= 工事)
天正 17(1589)年	2月 小天守の普請
天正 18(1590)年	8月家康が江戸へ 中村一氏 (豊臣方武将) が城主になる
慶長 6 (1601)年	内藤信成 (徳川一門) が城主になる
慶長 12(1607)年	2月 全国の大名に負担を命じる天下 普請による大改修開始 築城 2回目
	7月 家康が移り住む、7~8月天守台完成 12月 天守焼失 (建設途中か)
慶長 14(1609)年	徳川頼宣 (家康の子) が城主になる
慶長 15(1610)年	天守完成
元和 2(1616)年	家康が駿府城で亡くなる
寛永 元 (1624)年	徳川忠長 (家康の孫) が城主になる
寛永 9 (1632)年	忠長が所領没収される。 これ以降城主不在となり、幕府の直轄地 として江戸から来た役人が管理
寛永 12(1635)年	城外の火事が引火、天守・櫓等焼失
寛永 15(1638)年	御殿・櫓など再建する (天守再建せず)
宝永 4 (1707)年	宝永地震により石垣・建物被害
宝永 5 (1708)年	修復工事を行う
安政 元 (1854)年	安政地震により城内の建物ほぼ全壊
安政 4 (1857)年	修復工事を行う
明治 3 (1870)年	城門など建物の崩下り、取壊し開始
明治 29(1896)年	陸軍歩兵連隊設置に伴い天守台取壊し・ 本丸堀埋立

28年

地震の度に
崩れて修復

関連施設案内

公園マップ

天守台発掘調査現場 見学ツアー。発掘情報館きゅっしる

アクセス
〒420-0855
静岡市葵区駿府城公園 1-1
JR 静岡駅より 徒歩約 15分
新静岡駅より 徒歩約 12分
東名高速道路静岡 ICより 車で約 17分
新東名高速道路新静岡 ICより 車で約 18分
(Google マップによる)

施設利用案内

【料金】 発掘情報館 きゅっしる 入場無料

東御門・巽櫓	大人 200円	小中学生 50円	} 3施設共通券 大人 360円 小中学生 120円
坤櫓	大人 100円	小中学生 50円	
紅葉山庭園	大人 150円	小中学生 50円	

【開館時間】 9時~16時30分 (入場は16時まで)

【休館日】 発掘情報館 きゅっしる 年末年始 (12/29 から 1/3 まで)
3施設 月曜日 (休日・祝日の場合は休館振替無しで営業)、
年末年始

【お問い合わせ】 歴史・発掘 静岡市歴史文化課 054-221-1085
その他 二ノ丸施設管理事務所 054-251-0016

駿 すんぷじょうあとてんしゅだい
府城跡天守台

発 はくつちょうさ
掘調査

NAV | vol.5



? 天守はなぜ江戸時代の初めになくなったのか

明治時代に廃城になるまで、火事や地震で被災する度に天守台や他の建物は再建されたのに対し、寛永 12 (1635) 年以降天守が再建されることはありませんでした。これは徳川家による江戸幕府の体制が盤石なものとなり、戦や権威のシンボルであった天守が必要ない、天下泰平の世になったことを示すと考えられています。

? 現在の駿府城

駿府城にあった三重の堀は近代化によって一部が埋め立てられましたが、三ノ丸堀 (外堀) は約半分、二ノ丸堀 (中堀) はほぼ完全に残っており、全国的にみても貴重な城です。現在は二ノ丸堀より内側が駿府城公園となり、東御門・巽櫓、坤櫓が復元・公開されています。

静岡市歴史文化課



埋文ぼうや

駿府城跡天守台発掘調査と これまでの調査成果

駿府城公園再整備における天守台跡地の整備方針決定に向けて、天守台の大きさや残存状況などの学術的データを得るために、平成28年8月から令和2年3月まで現地調査を行いました。令和2年度からは出土資料の整理作業を行い、令和3年度末に報告書を発行する予定です。



慶長期(大御所家康)天守台
天守台の四辺を調査し、全容が明らかになりました。南北約68m×東西約61mで日本一大きな天守台です。



天守台下御門と木橋の痕跡
二ノ丸から天守台のある本丸へ入る所に橋が架かっていたとみられ、本丸側に天守台下御門がありました(写真②上部)。この付近から木橋の痕跡と思われる木材と柱穴が発見されました(写真③)。



天正期(豊臣方)天守台
慶長期天守台の内側から発見されました。南北約37m×東西約33mで築城当時最大級の天守台とみられます。



天正期小天守台
天正期天守台の東側から発見されました。16世紀末の城郭で、天守台と小天守台を同時に確認できたのは、全国で初めてです。



金箔瓦
天正期天守台の近くから363点の金箔瓦が出土しました。駿府城の金箔瓦は、金箔の貼り方に特徴があります。



天正期と慶長期の井戸
天正期・慶長期天守台の内側から井戸を発見しました。天正期井戸(写真⑥)、慶長期井戸(写真⑦)はそれぞれ内径が約1.8mあります。



埋文ガール

見学ゾーン&発掘情報館 きゃっしるの見どころ



見どころ1 二時期(慶長期・天正期)の天守台

二時期にわたる大迫力の天守台を見学できます。慶長期天守台は加工した石を積み上げて築いており、天正期天守台は未加工の自然石を積み上げた野面積みで築いています。

見どころ2 出土した金箔瓦

のきまるのきむらぎわら しゃがわら
軒丸・軒平瓦や鯰瓦などが出土しています。見学ゾーン南側では、金箔瓦の大量出土地点を見ることができます。

見どころ3 最新の調査成果を展示

発掘情報館きゃっしるでは、出土品とともに最新の調査成果を展示しています。

最新情報は「発掘情報館きゃっしる別館」へ→

『駿府城まるわかり』500円 / 『発掘調査概報』300円 販売中!



駿府城タイムトラベルツアーで駿府城CGが見られる!

毎月第4土・日 10:30~11:30/13:00~14:00 (無料)

問合せ: NPO法人静岡市観光ボランティアガイド駿府ウエイブ (平日 054-204-6655)



今川期の薬研堀・茶臼・中国製の磁器

薬研堀(写真⑧断面がV字状の堀)はこの辺りに何らかの施設があり、それらが堀で囲まれていた可能性を示しています。茶臼(写真⑨)は今川期に茶文化があったことを示し、中国製の磁器(写真⑩)は所有者の権威を示す遺物です。